

(公財)とやま国際センター広報誌

TIC NEWS

2026
(4)
Vol.159

インタビュー

莫^{ばく}

然^{ぜん}諾^{だく}

さん

- ・活動報告
- ・データでみる富山県に暮らす外国人住民
- ・令和8年度 とやま国際センターの事業紹介
- ・JICA富山デスクからのお知らせ
- ・作ってみよう!世界のレシピ
- ・となりの国際日記

富山で“共に生きる”を伝える香港出身記者

莫 然諾(ばく ぜんだく)さん

香港特別行政区・新界出身。2014年に名古屋へ来日。2024年、富山テレビ事業株式会社への就職を機に富山県へ移住。現在は富山テレビ放送株式会社に記者として活動している。

洗練されたテレビ局の一角で、さわやかな笑顔で迎えてくださった莫さん。

打ち合わせの合間にも、職場の方と丁寧なコミュニケーションを欠かしません。

香港出身というバックグラウンドを持つ記者として、富山で何を伝えようとしているのか——多文化共生への思いを伺いました。

——来日のきっかけと、日本で働こうと思った理由を教えてください。

子どもの頃から、香港では日本のテレビ番組が放送されていて、アニメやドラマ、バラエティ番組に親しんでいました。一番印象に残っているのは「堂本兄弟」ですね。「日本の番組って面白いな」と日本のテレビ業界に憧れを持ったのがきっかけです。大学ではジャーナリズムを専攻し、卒業後は香港のテレビ局に就職しました。その後、ワーキングホリデーを利用して2014年に名古屋へ来ました。ただ、来日当初はまったく日本語ができなかったのが、テレビ局で働くどころではなく、さまざまな仕事をしながら独学で日本語を勉強する毎日でした。それでも、テレビ業界への思いは消えず、履歴書を送り続けましたが、返事はなし。香港とは違って、日本のテレビ業界は本当に人気で、壁の高さを感じました。

2017年、制作会社に入り、ようやくメディアの仕事に就くことができましたが、そこでも壁がありました。会話はできても、原稿を書くのは別です。書き言葉の難しさに戸惑い、日本の職場文化にもカルチャーショックを受けました。例えば上司より先に帰ってはいけない等の暗黙のルールですね。当時の私は「自分には向いていないのではないか」と思い、3か月で退職しました。

——一度業界を離れた後、なぜ富山で再挑戦を？

30代になったとき、「自分は何のために日本に来たのだろう」と改めて考えるようになりました。そして、もう一度テレビ業界に挑戦してみたと思ったんです。

制作会社を辞めた後は、外国人留学生を支援する一般社団法人に就職しました。そこで日本語力はかなり上達したと思います。自分が理解

できるだけでなく、留学生にも分かる言葉で説明する必要があり、外部とのやりとりも多かったからです。ビジネス日本語や日本の職場文化にも慣れ、自信ができました。

そうして今の会社で記者として働くことになりました。それまでは富山県といえば立山のイメージしかありませんでしたが、実際に住んでみると名古屋よりも四季がはっきりしていると感じますね。また、取材に出ることは、富山を深く知る機会にもなっています。ホタルイカ漁や南砺市で開催されたモーグルW杯の取材、裁判の傍聴など、記者でなければ足を運べない場所へ行くことができるからです。毎日が新しい経験の連続で、とても新鮮です。そして予想外だったのは、リポーターやディレクターとして自分の名前が表に出るようになったこと。外国人の名前ではありませんが、会社は国籍に関係なく平等に扱ってくれていると感じています。原稿を書くのは今でも大変ですが、周囲の皆さんがいつも支えてくれてます。そのサポートに心から感謝しています。

——記者として日々の取材で大切にしていることはなんですか？

取材の際に常に意識しているのは、「どんな文化にも必ず違いがある」という前提を持つことです。これは外国人に限らず、すべての取材先に対して同じです。香港はさまざまな国の文化が混ざり合う地域ですし、そもそも人は一人ひとり違います。その人の“素”の部分を知ることが大切だと思います。そうすることで、自然と距離が縮まり、共感も生まれると思うんです。

実は、日本人への取材よりも、外国人への取材のほうが共感できる場面が多いと感じることもあります。文化の違いや日本語学習の苦労など、自身の経験と重なる部分があるからだと思います。「日本語はどうやって勉強したのですか」と逆に質問されることもありますし、「母国に帰りた」といった、日本人には話づらい本音を打ち明けてくれることもあります。

抽象的な言い方かもしれませんが、多文化共生を推進することが、記者としての役目だと考えています。日本で暮らす外国人をテーマにしたドキュメンタリー番組「となりのYOU」は、日本人にとっても外国人にとっても住みやすい富山になってほしいという思いで制作しました。最近では外国人に関するネガティブな話題も少なくありませんが、地域で懸命に生活している人たちが



います。「外国人だから」という言葉で一括りにせず、一人ひとりを見てほしいと思っています。

——ご自身はこの地域の中でどのような立場・役割があると思いますか？

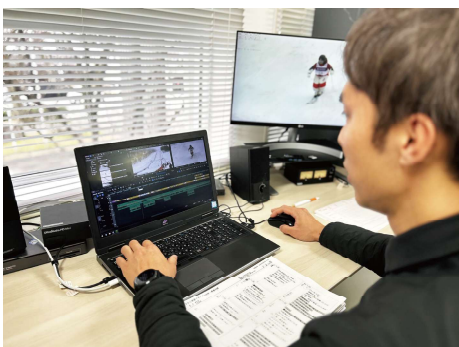
日本人と外国人の架け橋のような存在になれたらうれしいですね。実は今年度、住んでいる地域で町内会長を務めました。町内会長というと、日本人が担うことが多い役割ですよ。地域のイベントを手伝ったり、住民の方々と交流したりする中で、「テレビ見たよ」と声をかけていただくことがあるのですが、その一言が本当にうれしいんです。私自身が町内会長として活動することで、「こういう外国人もいるんだよ」と、偏見のない姿を自然なかたちで伝えられているのではないかと感じています。

一方で、地域の皆さんはとても温かく、「これまでどんな生活をしてきたの?」と、香港出身の私に興味を持って話を聞いてくださる方もたくさんいます。外国人の方々にも、富山には外国人に関心を持ち、温かく接してくれる人が多くいるということを伝えたいと思っています。

私は、その双方に向けて発信できる立場にいるのではないかと感じています。

——最後に読者のみなさんに伝えたいことはありますか？

自分とは違う国の人を前にすると、「だまされるのではないかと、不安を感じることもあるかもしれません。でも、その人の話をじっくり聞き、その人の文化を知ること、とても面白く、発見に満ちています。少し勇気を出して、心を開き、街で出会う外国人の方に、ぜひ声をかけてみてほしいと思います。



多文化共生フォーラム 「ミライトーク!あなたのちがいが富山をおもしろくする!」

2月21日(土)、富山市民プラザにて令和7年度多文化共生フォーラムを開催しました。第1部ではゲストに俳優・タレントの副島 淳さんをお迎えし「ちがいを楽しむ」をテーマにご自身の幼少期の体験談などを交え講演いただきました。第2部では「私たちのちがいが富山をおもしろくする!」をテーマに県内在住の多様なバックグラウンドを持つ若者たちを迎えトークセッションを実施しました。



日本語支援者スキルアップ研修会

2月23日(祝・月)に劇作家の平田オリザさんをお迎えし、ワークショップと講演を行いました。午前の部では、日本語支援者の皆さんが様々なワークショップを体験し、平田さんがそれぞれのワークショップの特性、目的等について説明されました。午後の講演では「これからのコミュニケーションには、コンテキストをすり合わせて、ちょっとした共有できることを見つけていくこと、それを楽しめること、コミュニケーションのレジリエンスを高めていくことが大事」というお話に、会場の皆さんが興味深く聞き入っていました。



賛助会費・寄付金を頂いた方のご紹介

賛助会員の皆様をご紹介させていただきます。

会員の皆様のご支援(令和8年3月現在)に対して、この誌面を借りて改めて厚く御礼申し上げます。なお、今回掲載させていただいたのは、掲載についてご了解いただいた会員の皆様のみであり、このほか多数の皆様からご支援いただいていることを申し添えます。

(敬称略 50音順)

団体

朝日印刷株式会社
株式会社インテック
株式会社小矢部精機
川端鐵工株式会社
株式会社スカイインテック
株式会社瀬戸
タカノ建設株式会社
TSK株式会社
株式会社富山育英センター
富山空港ターミナルビル株式会社
(一社)富山県芸術文化協会

富山県日韓親善協会
富山県日中友好協会
富山県ベトナム友好協会
富山国際学院
富山日豪ニュージランド協会
Nix JAPAN株式会社
株式会社ニュージャパン・トラベル
ファインネクス株式会社
伏木海陸運送株式会社
富士フィルム富山化学株式会社
北酸株式会社

北陸カナダ協会
株式会社北陸銀行
北陸電気工事株式会社
北陸電力株式会社
株式会社MAE
株式会社村尾地研
米原商事株式会社
リードケミカル株式会社
税理士法人リタパートナーズ
YKK株式会社

個人

筏井 章史
石崎 順子
石田 哲義
磯部 信史
伊藤 上子
伊藤 裕子
稲垣 俊吉
大江 ひとみ
大蔵 外喜雄
大谷 弓子
大坪 昭一

荻布 彦
金岡 徹雄
金森 達雄
上下 友佳理
河内 誠
川西 直司
川除 節子
北林 吉之
楠 宗久
黒畑 喜昭
佐々木 外志

澤開 英徳
柴田 正信
柴山 直人
下坂 立正
SHARIF MUHAMMAD
須河 弘美
鈴木 文男
高木 裕信
高田 昇
高橋 喜良
高畑 淳一

高柳 知子
竹野 博和
竹丸 譲
TAMANG ASBIR
永井 美穂子
夏野 修
仁木 良市
西野 欧
能勢 博雄
能登 義隆
莫 然諾

別所 由佳
前田 将孝
松本 智広
村上 綾子
村田 善市
山瀬 陽一
山本 芳春
吉川 禎
吉澤 ジンタナ
吉村 健治

皆様のご支援が事業に繋がっています

(公財)とやま国際センターでは国際交流、国際協力、国際理解及び多文化共生を促進する事業をご支援いただける賛助会員の方を募集しています。ご賛同いただける方はQRコードよりお申し込みください。
(なお、当財団への寄付は特定公益財団法人として税法上の優遇措置が適用されます)

会費(一年度につき)

【学生会員】 一口 千円

【個人会員】 一口 三千円

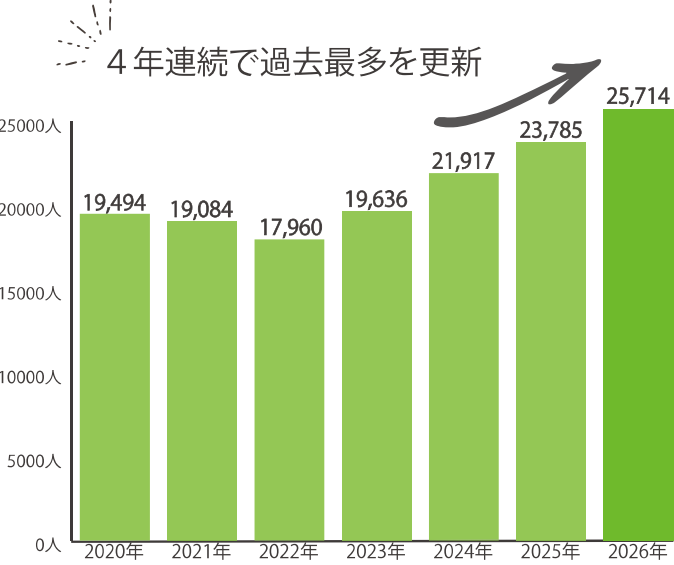
【団体会員】 一口 三万円



ご入会はこちらから



データでみる富山県に暮らす外国人住民(2026年1月1日)

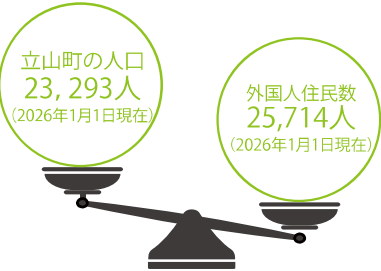
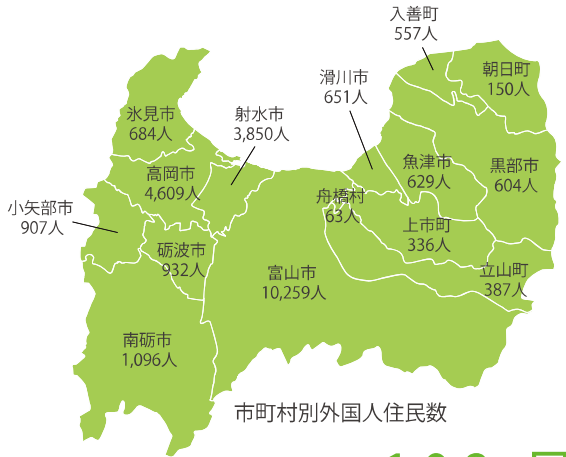


2026年1月1日現在の外国人住民数は

25,714人

前年より1,929人増(+8.1%)となり、4年連続で過去最多を更新。
県内総人口比は2.6%となりました。
コロナ禍で一時期減少したものの、2023年以降は回復傾向に転じ、県内における外国人住民数は着実に増えています。

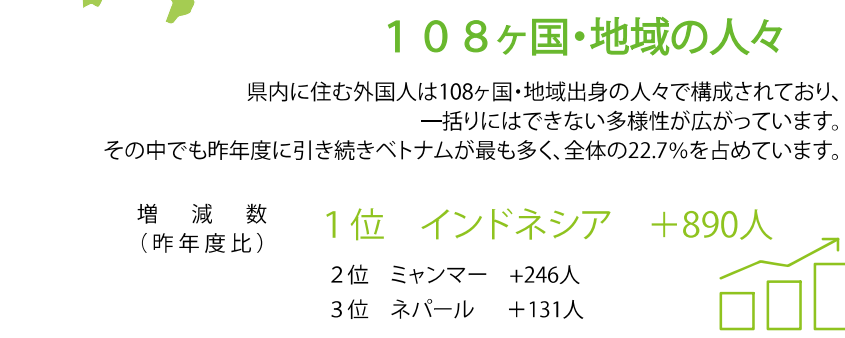
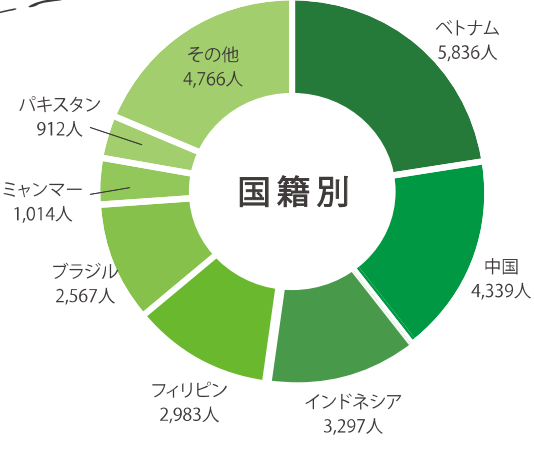
県内の外国人住民数25,714人は、
県内の一つの市町村の人口規模
に匹敵します。
例えば、立山町の人口23,293人を
上回る人数です。



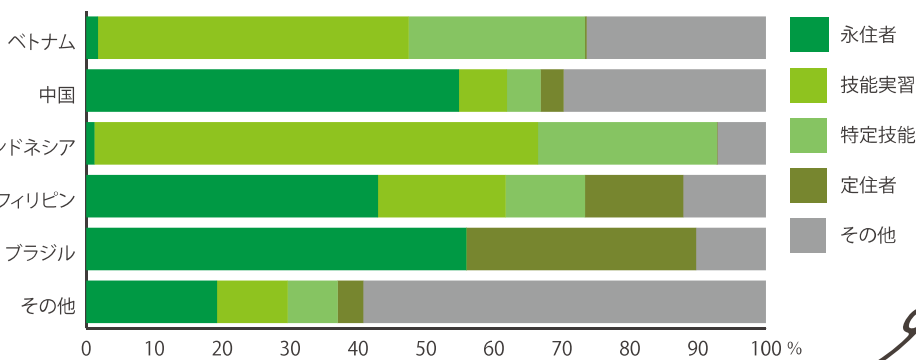
富山市、高岡市、射水市で県全体の7割以上

外国人住民数	総人口比
1位 富山市 10,259人	1位 射水市 4.3%
2位 高岡市 4,609人	2位 小矢部市 3.3%
3位 射水市 3,850人	3位 高岡市 2.9%

上位3つの市で全体の
72.8%を占めます。



国籍によって異なる在留資格の傾向



技能実習制度は今後「育成就労制度」へと移行する方向で制度改正が進められています。
制度の見直しにより、在留資格の構成や人材の流れにも変化が生じる可能性があります。

国籍の多様化が進む中、在留資格の内訳からは、
就労目的や定住状況の違いも読み取れます。

- ✓ベトナム、インドネシアは技能実習が中心
- ✓中国、ブラジルは50%以上が永住者
- ✓アジア諸国出身者で特定技能が増加

用語解説

技能実習
実務を通じて技能を学ぶことを目的とした制度。

特定技能
一定の技能を持つ人が働くための制度。

永住者
在留期間に制限がなく、日本に永住できる資格。

定住者
特別な事情(日系人やその家族等)に基づき一定期間の居住が認められる資格。

令和8年度 とやま国際センターの事業紹介

今年度も、国際理解、国際交流、国際協力及び多文化共生の促進のため、様々な事業を展開していきます。詳しい
事業内容については(公財)とやま国際センターのホームページをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

外国語・異文化を学ぶ

言語・レベル	期間	曜日・時間
中国語(入門)	5/29~3/12	金曜日 18:30~20:00
中国語(初級)	4/14~12/15	火曜日 18:30~20:00
中国語(中級)	5/14~2/25	木曜日 18:30~20:00
韓国語(入門)	5/14~2/25	木曜日 18:30~20:00
韓国語(初級・昼)	5/14~3/11	木曜日 15:00~16:30
韓国語(初級・夜)	5/12~3/9	火曜日 18:30~20:00
英語(時事英語)	4/8~7/8	水曜日 18:30~20:00
ポルトガル語(初級)	5/25~3/16	月曜日 18:30~20:00
インドネシア語(入門)	4/19~10/4	日曜日 15:00~16:30
ベトナム語(入門)	4/12~10/4	日曜日 13:00~14:30
ベトナム語(初級)	4/13~3/1	月曜日 18:30~20:00

場所：とやま国際センター
※詳細はホームページをご確認ください。

English Immersion Classroom
英語で様々なジャンルの授業を受けることができる体験
講座です。(年3回)

English Reading Club
英語の本やエッセイについて読書後の感想をシェアし、
文化や習慣の違いについて語り合います。
(全4回 6/14(日)、9/27(日)、12/6(日)、3/6(土))

ナマステインディア
インド出身の国際交流員がインドの文化や習慣について英語で紹介します。(4/10(金)~7/10(金))

国際交流ひろば
各国の国際交流員や県内在住外国人を講師に異文化理解
に関する講座(料理教室など)を開催します。(年4回)

多文化理解講座
富山県に縁のある海外在住者を講師に迎え、各国の歴史や文化、生活習慣等をお話しいただくオンライン講座
です。(年4回)

国際理解出前講座
地域の国際交流協会や小中高校・大学などに講師が出
向き、国際理解や国際協力等に関する講座を行います。

国旗や民族衣装の貸し出し
各国の国旗や民族衣装を無料で貸し出します。

子どものためのグローバル教育セミナー
グローバル時代を生きる子どもたちに必要となる教育について
のオンライン講座です。(年2回)

外国語の絵本よみきかせ親子の会
各国の絵本の読み聞かせや歌、工作を通じて外国文化に
親しみます。(月1回)

日本語支援

TICにほんご教室
(入門) あいさつからはじめます。

場所	期間	曜日・時間
黒部	黒部市文化センターコラーレ	4/19~11/15 日曜日 10:00~11:30
富山	インテックビル4F	4/12~9/6 日曜日 10:00~12:00
射水	南太閤山コミュニティセンター	5/9~8/1 土曜日 10:00~11:30

(初級) 簡単な会話からはじめます。

場所	期間	曜日・時間
富山	インテックビル4F	4/12~9/6 日曜日 10:00~12:00
南砺	福光福祉会館	5/10~9/27 日曜日 10:45~12:00

にほんご交流サポーター養成講座
地域の日本語教室などで、身近な外国人の方々へ日本語のサポートをしていただける方を養成する講座です。
期間：4月26日(日)~8月23日(日) 全10回
時間：13:30~16:00
費用：3,000円 定員：20人
場所：とやま国際センター研修室A

日本語支援者スキルアップ研修会
日本語支援者のスキルアップを目的とした研修会を開催します。

多文化共生

富山県外国人ワンストップ相談センター
県内在住外国人のみなさんからの相談に多言語で対応
します。

多文化居場所づくり事業
日本人と対話をしながら日本語能力の向上を目指します。
また、外国人児童への宿題のサポート等や子ども支援者の養成を行います。

富山県災害多言語支援センター運営訓練
大規模災害発生時を想定して、県、とやま国際センターなどが
合同で災害多言語支援センターの初動訓練を行います。

外国人のための防災研修
日本人住民と外国人住民が一緒に地域における防災や災害時の
協働について考える研修を実施します。

外国人コミュニティリーダーつながり事業
地域の外国人コミュニティリーダーのみなさんに当センターと
つながってもらいます。

❀ JICA海外協力隊 春募集4/15(水)まで! ❀

「興味はあるけれど一歩が踏み出せない」「行きたい気持ちはあるけれど、職種選びに悩んでいる」という声をよく耳にします。1人で悩まずに、一緒に考えてみませんか？
お気軽に個別相談にお申込みください！

個別相談お申し込み



詳細はこちら



富山デスクのつぶやき ～セネガル里帰り編～

JICA海外協力隊（職種：環境教育）として活動していた西アフリカのセネガル共和国に、7年ぶりに里帰りをしてきました！

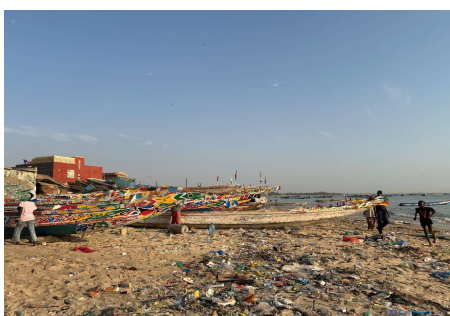
朝3時にフライングで鳴き始める鶏と、モスクのアザーンの音に最初の日々は熟睡できませんでしたが、それもまた懐かしかったです。美味しいご飯をいただき、お茶を飲み、散歩をし、ただセネガルの人々と当たり前の日常を過ごすことで、過去の記憶の中の「セネガル」を、鮮やかに上塗りすることができました。私が住んでいた頃から何も変わっていないように見えるセネガルですが、配属先の市役所の一部業務が電算化されていたり、電子決済等が主流になっていたり、外灯が増えていたりするなど、変化もたくさんありました。セネガルも日本も社会課題は多くありますが、遠くで希望を捨てずに一生懸命に生きているセネガルの友人や同僚を思い出し、私も日本でできることを着実に積み重ねていこうと思います。

Jërejef waay! (セネガルのウォロフ語でありがとうの意)

JICA富山デスク 安川



隊員時代の環境教育の授業の様子



セネガルの海岸の様子

✓セネガル共和国
かつてはフランスの植民地で、1960年に独立。独立後は西アフリカの中でも比較的政治が安定している国として知られています。

首都：ダカール
人口：約1,800万人
公用語：フランス語（ほかにウォロフ語など現地語も広く使用）
通貨：CFAフラン
宗教：イスラム教が多数派（約9割）



国際協力出前授業 ー富山県内、どこでも伺います!ー

開発途上国の実情や日本との関係、日本の国際協力についてみなさんに知っていただくために、学校や職場にJICA海外協力隊などのボランティア経験者が講師として伺います。異文化理解、多文化共生のほか、道徳や人権学習、環境教育、キャリア教育などの授業でも活用されており、対面・オンラインいずれにも対応しています。是非お気軽に、お問い合わせください！

【JICA富山デスク】

TEL/FAX: 076-464-6491

Mail: jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp



出前授業について

今回のテーマ : 迷信、ジンクス

日本では「茶柱が立つと縁起が良い」「夜に爪を切ると親の死に目に会えない」などが有名ですが、みなさんの国に伝わる迷信、ジンクスを教えてください!

BRAZIL ブラジル出身 マルコスさん

ブラジルならではの多様性ある迷信

ブラジルは、ヨーロッパ系やアフリカ系など多様な民族と文化の影響を受けてきたため、日常生活や特別な行事の中に多くの迷信が残されています。鏡を割ると七年間不幸になる、梯子の下を通ると不運を招く、木や扉を三回叩くと悪い出来事を避けられる、などが有名です。新年には、海岸で七つの波を飛び越え、女神イエマンジャに願いや感謝を捧げ、幸運や再生、浄化、守護を祈ります。これらの迷信は世代を超えて受け継がれ、人々の心に深く根付いています。

KOREA 韓国出身 ヒョンジョンさん

韓国にもさまざまな迷信やジンクスがあります。試験の前日にわかめスープを食べると「滑る」と言われますが、これはわかめが滑りやすい食べ物だからです。また、夜に笛を吹くと蛇や幽霊が現れると言われており、音が蛇を呼ぶと考えられていた伝承や、夜は霊的な存在が近づきやすいという信仰が結びついて生まれました。さらに、カササギは昔から縁起のいい鳥とされ、鳴くと良い知らせが来ると信じられてきました。このように、生活と結びついた迷信が多く残っています。

RUSSIA ロシア出身 タチアナさん

現代は合理的な人が増えて迷信などあまり信じていませんが、小さい頃にお年寄りから聞かされた言い伝えを大人になってからも知らず知らず信じてしまっていることはありませんか。ロシアには迷信や言い伝えが数多くあります。例えば、深刻な金銭トラブルに見舞われるから「室内では、決して口笛を吹いてはいけない」という迷信があります。他には、「彼氏が黄色いチューリップをくれたら、近いうちに別れる」や「左の手のひらが痒くなったら近い将来お金が入るサイン」「猫が顔を洗うと来客がある」などもあります。

INDIA インド出身 ラチャナさん

インドの迷信は、伝統・宗教・民間伝承に基づく文化的信念で、日常生活や重要な決断に影響を与えています。黒猫が道を横切ると立ち止まる、特定の日に髪や爪を切らない、くしゃみで予定を延期するなどの考えが一般的です。邪視を防ぐためにレモンと青唐辛子を吊るしたり、赤ちゃんに黒い印を付けたりします。

また、大切な行動の前にヨーグルトと砂糖を食べると幸運が訪れると信じられています。多くは無害ですが、合理的な思考とのバランスが重要です。

AMERICA アメリカ出身 アリスさん

くしゃみの後にbless youを言う

くしゃみの後に何も言わないのがかなり良くないという迷信があります。なぜかという、悪霊払いになるからです。ほとんどのアメリカ人はbless you(祈りをあげるという意味)を言いますが、宗教に繋がりのあるフレーズなので私の家族はgesundheit(ドイツ語で、健康を大事にという意味)を使っています。来日してくしゃみの後に周りの人が無言だったのは少し違和感があり、他人のくしゃみで無意識に何か言いたくなりました!

VIETNAM ベトナム出身 ヴォンさん

猫が入ると大変、犬が入ると繁栄

ベトナムには「猫が入ると大変、犬が入ると繁栄」という言い伝えがあります。突然犬を譲ってくれたり、飼い主を亡くした犬が家に入ったりすると、良いことが起きる前兆だと言われています。猫は家計の悪化や商売不振、家庭内の不和などを招く存在として捉えられることが多いです。特に正月や人生の節目など、大切な時期に猫が突然家に入り込むことは縁起が悪いとされ、敬遠される傾向があります。

CHINA 中国出身 リンリンさん

中国では日常生活の中に多くのジンクスが存在します。例えば、夜に口笛を吹くと霊を呼ぶとされ、特に子どもには控えるよう言われることが多いです。また、正月期間にゴミを捨てると福と一緒に捨ててしまうと考えられ、数日間は掃除を避ける家庭もあります。さらに、友達や家族と「梨」を分けて食べると、「別れ」を連想させるため縁起が悪いとされます(「梨」と「離」の発音が同じため)。これらは迷信でありながら、人間関係への配慮や家族を大切にする価値観を反映しており、今も人々の行動に影響を与えています。

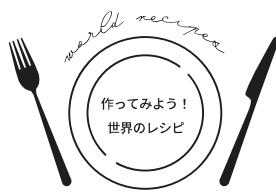
CHINA 中国出身 ヒョウさん

中国では発音に基づく縁起が重視される。

中国では数字や言葉の響きを重視したジンクスが多くあります。代表的なのが「4」で、「死」と同じ発音のため、部屋番号や贈り物の個数として避けられる傾向があります。一方、「8」は「発財(お金持ちになる)」を連想させるため、開店日や車のナンバーなどで好まれる数字です。また、時計を贈ることは「終わり」や「死」を連想させるため、結婚式に限らず誕生日や記念日などでも縁起が悪いとされています。こうしたジンクスは言語文化と深く結びつき、中国における縁起や人間関係への配慮をよく表しています。



ブラジル料理



ブラジル出身 ダニエラさん



アロス・ドーセ Arroz Doce



MEMO
ブラジルの「おふくろの味」として、伝統的な祭りである「フェスタ・ジュニーナ」(6月と7月に開催される祭典)でよく食べられます。

Arroz (アロス) = 米、Doce (ドーセ) = 甘い、つまりポルトガル語で「甘いお米」を意味する伝統的なライスプディング。家庭やお祭りで親しまれる素朴なデザートです。

材料

米	1カップ	コンデンスミルク	365g (お好みで)
水	2カップ	シナモン	1本 (お好みで)
牛乳	3カップ	クローブ	2個 (お好みで)
砂糖	半カップ	塩	ひとつまみ
		シナモンパウダー	お好みで

つくり方

1. 鍋に米と水を加えて、中火で煮る。
2. 水分が飛んだら、牛乳、砂糖、塩、シナモン、クローブを加えて、混ぜながら弱火で煮る。
3. とろみがついたら、コンデンスミルクを加える。
4. さらに3〜5分ほど煮て、クリーミーになったら、火を止める。
冷めるととろみが強くなるので、注意してください。
5. お好みで、シナモンパウダーを振りかける。
温かいままでも冷やしても、おいしく召し上がれます。

となりの国際日記

読者の皆様から寄せられた国際交流に関するエピソードをご紹介します！

今回のテーマ 「私の海外旅行事件簿」

出逢えたご縁

ペンネーム Honey さん

昨年の夏、大学時代に仲良くなった中国人の友人に会い、彼女の故郷・遼寧省大連市を訪れた。コロナ禍を経て、6年ぶりの再会だった。初めての中国。3日間という短い時間だったが、友人のおかげで様々な思い出ができた。どれも事件のように衝撃的、だけど新鮮で忘れられないものばかり。ヴェネツィアを模した運河の夜景、動物園で見たパンダやキンシコウ、あまりの辛さで生まれて初めて舌が痺れた絶品火鍋、トイレトペーパーが置かれていないトイレ、注文から支払いまで店員さんを介さずにスマホで完結するカフェ、等々。日本での常識や自分にとって当たり前なのが、場所や人が変われば当たり前であるとは限らないということを身をもって実感した。彼女と出逢わなければ、「中国に行く」という考えに至らなかっただろう。週末に中国ドラマを一気見したり、中国語を勉強したりすることもなかっただろう。彼女との出逢いは、井の中の蛙だった私が大海を知るきっかけになった。文化や国籍が異なっても、仕事では同じ悩みを抱え、私生活ではメイクやファッション、推しの事などについて語り合うことができる。これからも、この「出逢えたご縁」を大切にしていきたい。



厳寒のイルクーツク

ペンネーム モンド さん

約30年前の初冬、ロシアのイルクーツクへ、旅行ではなくて数名の同僚たちと出張した時のことです。現地はマイナス20℃を下回る気温。用務を終えた翌朝、ウラジオストク行き



の飛行機に搭乗したものの、なかなか動き出さず、果ては何やらアナウンスが流れたと思いきや、乗客がゾロゾロ降り始めたのです。わけが分からないまま自分たちもターミナルに戻ったのですが、なんと「爆発物が預け荷物に紛れ込んでいる可能性がある」とのこと。

荷物を全てチェック直したのですが、それにも時間がかかりすぎ。暖房の効きが弱く、温かい飲み物さえも売っていないターミナル内で延々と待ちました。感覚としては半日近かったように思います。私たち一行はみな前夜の深酒が祟り、3席分ほどずつ使った横になっていました。「みやげ話としては面白いかも」と思うほかありませんでした。

現地で耳にした「冬はバイカル湖の湖面をクルマで横断して近道する」、「ロシアでは冷蔵庫は食べ物や凍らせないために使う」といったジョークもつかないフレーズとともに、今もたびたび思い出します。

投稿いただいた皆さまありがとうございました。

次回7月号のテーマは「うれしかった瞬間」

言葉が通じた瞬間、困っている外国人に声をかけた話など、なんでも結構です。投稿は短くても長くても、途中でオチがなくてもOK！みなさまのお話をぜひ聞かせてください！

文字数:500字以内

応募方法:下記フォームよりオンライン受付

応募メ切:次回7月号掲載分 6月10日(水)まで



投稿はこちらから